

# 湖南省タウンミーティングを実施しました

7月3日(月)、4日(火)、13日(木)、14日(金)に市内4か所で「公共施設の最適化に向けて」、「市民に開かれた安心安全な拠点づくりをめざして」と題して「市長と語ろう！タウンミーティング」を開催しました。



多くの市民の皆さんにご参加いただいたタウンミーティング



テーマについて説明する谷畑市長

延べ207人と多くの人にご参加いただき、市長と活発な意見交換が行われ、多くのご意見をいただきました。庁舎の建替をテーマにした『市民に開かれた安心安全な拠点づくりをめざして』については、以下のようなご意見をいただきました。

## 参加者からのご意見

庁舎整備に係る事業費の財源をどうするのか、また、市民税など税金はどのようになるのか。



庁舎建替に有利な起債がありますので、これを活用しながら取り組んでいきたいと考えています。庁舎の建替のために税を上げるということは今のところ考えていません。

60数億円という費用がかかるが、財政計画の見通しが立つのか疑問である。将来的に赤字のツケが市民に回ってくるのではないかと心配である。庁舎整備をすることで市民の行政サービスが低下するのではないかと。



今後、面積についての精査を行い、もう少し事業費は押さえられると考えています。建物については、今の人だけが使うわけではなく将来の人にも使用しますので、将来の人にも負担をいただきながら建てるという発想になります。新しいサービスをしていこうとするとそれなりの歳入が必要となってきます。予算を組んで、皆さんからお預かりする税金の額と皆さんへの行政サービスの量のバランスを取っていくのが行政の財政であり、議会においても議論いただきたいと思います。

ワンストップ機能など行政施設の中央集中的な話よりも、いろいろな意味での危険分散、あるいは高齢化の中で、近場での防災や対応、安心安全の確保が必要ではないかと。



中央に集めるということについては、行政サービスのワンストップ化ということで、同じところに行政サービス機能がまとまっているということが、一番効率的であると考えています。避難場所ということでは各学校の耐震化のめどはついてはいます。また、西庁舎のあり方についてもこれから皆さんと議論をしていきたいと思っています。

「市民に開かれた安心安全な拠点づくりをめざして」について、そのあらましを次ページ以降で紹介します。また、当日お配りした資料や、意見交換の要約については市ホームページに掲載します。

# ～「市民に開かれた安心安全な拠点づくりをめざして」～

## 東庁舎周辺整備



建替が完了した石部小学校

近年、大規模な災害が全国で多発しており、湖南市においても、いつ災害が起こっても不思議ではありません。このようななか、湖南市では石部小学校の建替や、現在は甲西中学校の建替工事を実施しており、子どもたちの安全を確保し、避難場所として整備するため、教育施設の耐震化を優先して行ってきました。教育施設の耐震化にめどがついたことから、庁舎の課題解決に向けて、平成27年度から西庁舎の行政機能や、甲西図書館、保健センター、中央まちづくりセンターなど周辺施設の集約と複合化を検討した「東庁舎周辺整備計画（基本構想）」を取りまとめ、平成28年度から東庁舎周辺整備に係る基本計画の策定に取り組んでいます。



被災後の熊本県宇土市役所(宇土市ホームページより引用)  
熊本地震では宇土市役所を含む5つの市町で庁舎が被災しました。災害への対応には仮設庁舎や間借りした民間施設が使われました。

(※1981年6月に建築基準法が改定されたことにより、1981年以前の建築物は旧耐震基準、以後の建築物は新耐震基準が適用されています。)

### 1. 現状と課題

#### 耐震性能不足

東庁舎、西庁舎ともに、築年数が約40年を経過し、現行の耐震基準を満たしていない(※旧耐震基準)ため、災害時には建物の倒壊の危険性があります。  
耐震補強工事を実施する場合、追加する鉄骨などにより、執務スペースの減少、執務効率の低下につながるおそれがあります。  
昨年4月の熊本地震を受けて、防災拠点となる庁舎の耐震化の推進が全国的に求められています。

施設名	構造	延床面積(m <sup>2</sup> )	建築年	耐震基準
西庁舎(本庁舎)	鉄筋コンクリート造	2,432.0	1977	旧耐震
西庁舎(自転車置場等)	鉄筋コンクリート造	31.0	1977	旧耐震
西庁舎(別館)	鉄筋コンクリート造	170.0	1977	旧耐震
石部文化ホール	鉄筋コンクリート造	2,333.4	1989	新耐震
石部まちづくりセンター	鉄筋コンクリート造	698.1	1989	新耐震
石部図書館	鉄筋コンクリート造	750.7	1989	新耐震
石部保健センター	鉄筋コンクリート造	1,145.0	1978	旧耐震
石部老人福祉センター	鉄骨鉄筋コンクリート造	570.0	1989	新耐震
石部防災センター	鉄骨造	547.0	2004	新耐震
湖南中央消防署(石部分署)	鉄骨造	359.9	2005	新耐震
保健センター	鉄筋コンクリート造	1,608.0	1989	新耐震

施設名	構造	延床面積(m <sup>2</sup> )	建築年	耐震基準
東庁舎(本庁舎)	鉄筋コンクリート造	5,887.2	1978	旧耐震
東庁舎(上下水道事業所)	鉄骨造	289.9	1988	新耐震
東庁舎(食堂棟)	鉄骨造	245.8	1978	旧耐震
東庁舎(公用車庫)	鉄骨造	826.0	1985	新耐震
東庁舎(相談室)	軽量鉄骨造	35.8	2010	新耐震
東庁舎(水防・倉庫)	鉄骨造	297.0	1985	新耐震
甲西図書館	鉄筋コンクリート造	2,299.3	1988	新耐震
甲西文化ホール	鉄筋コンクリート造	1,657.0	1986	新耐震
中央まちづくりセンター	鉄筋コンクリート造	1,055.0	1968	旧耐震
湖南中央消防署(庁舎)	鉄筋コンクリート造	334.9	1980	旧耐震
湖南中央消防署(車庫)	鉄骨造	282.0	1980	旧耐震
社会福祉センター	鉄骨鉄筋コンクリート造	1,250.0	1981	旧耐震
共同福祉施設	鉄筋コンクリート造	1,035.1	1988	新耐震

### 【東庁舎耐震診断結果の概要】(平成27年度実施)

	1階	2階	3階	4階	(最小値)
X方向のI <sub>s</sub> 値	0.532	0.565	0.589	0.699	0.532
Y方向のI <sub>s</sub> 値	0.523	0.524	0.520	0.700	0.520

(※I<sub>s</sub>値とは、建物の強度や粘りに加え、その形状や経年状況を考慮した耐震指標)

( X方向:東庁舎平面図上の左右方向の揺れ )  
( Y方向:東庁舎平面図上の上下方向の揺れ )

・東日本大震災を契機に、庁舎にも防災拠点施設としての役割が求められています。現在の東西庁舎では防災拠点機能が十分備わっていません。  
また、防災拠点として震災後も補修することなく継続利用することを求められる庁舎にはI<sub>s</sub>値0.9以上が必要とされています。  
東日本大震災が発生した場合、建物のI<sub>s</sub>値が0.6以上あれば、倒壊する危険性が低いとされていますが、東庁舎の耐震診断を行ったところ、複数の場所でもI<sub>s</sub>値0.6を下回る結果となりました(左表参照)。  
また、防災拠点として震災後も補修することなく継続利用することを求められる庁舎にはI<sub>s</sub>値0.9以上が必要とされています。

### 防災拠点としての機能不足

## 庁舎機能の分散

合併時に二庁分庁方式が採用され、現在は市長部局が東庁舎に、教育委員会部局、人権擁護課、市民課分室が西庁舎にあります。

保健センター（高齢福祉課、健康政策課）が夏見、商工観光労政課が共同福祉施設（サンライフ甲西）に分散配置され、来庁される人に行政手続きの上で、ご不便をおかけしています。また、行政効率の低下や維持管理費の増大を招いています。

その他に、  
 ・庁舎の狭隘化  
 ・ユニバーサルデザインへの対応不足  
 ・施設の老朽化  
 ・来庁者駐車場の不足  
 ・甲西図書館、保健センターの借地問題  
 ・自然エネルギー・省エネルギーへの対応が不十分  
 などの課題があります。



## 2. 庁舎整備の基本方針

次の視点から総合的に検討します。  
 課題への対応、整備の実現性、工事期間中の行政サービスへの影響、整備費用など

庁舎機能等の集約・他の施設との複合化を見据えた東庁舎の再整備  
 （左図イメージ）



集約・複合化のイメージ

庁舎整備の基本方針	
<b>【基本方針1】</b> ・市民の安全・安心な暮らしを支える拠点となる庁舎	・高度な耐震機能に加え、大規模災害の発生時には、救助や復旧・復興に向けた指揮活動、情報収集、災害復旧・復興活動の機能を担う防災、災害復旧・復興の拠点となる庁舎をめざします。
<b>【基本方針2】</b> ・市民に開かれた誰もが使いやすい庁舎	・市民参画の場、市民と行政を繋ぎ交流を図る場として、市民が気軽に立ち寄ることができる開かれた庁舎をめざします。 ・市民サービスの向上を重視し、年齢や障がいの有無にかかわらず、誰もが使いやすく、わかりやすいユニバーサルデザインの考えに基づいた庁舎をめざします。
<b>【基本方針3】</b> ・社会情勢の変化に対応できる長寿命で柔軟性の高い庁舎	・社会経済情勢の変化を踏まえた将来の行政組織等に対応できる柔軟性の高い庁舎をめざします。 ・高度情報化社会に対応した設備や、多様化・複雑化する市民ニーズに応える最適な執務環境を備えた庁舎をめざします。
<b>【基本方針4】</b> ・環境に配慮した庁舎	・自然エネルギーの有効利用や省エネルギー化、省資源化を図り、地球環境に配慮した庁舎をめざします。

熊本地震では、複数の自治体の庁舎が被災し、使用できなくなったことから、庁舎外で災害対応をせざるを得ない事態が起きました。

自治体は災害発生直後から、罹災証明書発行や道路、水道などのインフラの復旧に向けた取組を行わなければなりません。また、多くの救援物資の受入れや、市民への物資提供、救援ボランティアの受入れ態勢の確保などを迅速に行う必要があります。

築後40年が経過しようとしている東西庁舎は耐震性能が不足しています。万一、大規模な災害が起これば、庁舎が使用できなくなると、こうした対応が滞り、災害復旧に遅れが生じることとなります。

今後は、防災拠点を担う災害に強い庁舎の整備をめざして、分散した施設の集約化・複合化と合わせ、東庁舎の建替に向けた検討を進めます。

### 3. 事業計画

#### (1) 概算事業費

■ **概算事業費** <東庁舎の建替案 基本構想より(市ホームページに掲載)>

【建設事業費】 ・庁舎機能概算事業費 約38億円

計画延床面積:約10,000㎡

・複合機能概算事業費 約18億8千万円

計画延床面積:約5,000㎡

○保健センター分 約6億円

○甲西図書館分 約8億8千万円

○中央まちづくりセンター分 約4億円

【解体事業費】 ・既存施設除却事業 約3億2千万円

【調査・設計費】 ・基本・詳細設計費 約2億2千万円

(※共同福祉施設は新耐震基準のため継続利用、社会福祉センターは他施設への移転を検討)

#### 参考

- 石部小学校改築(建物のみ)  
事業費 約23億6千万円  
延床面積 7,630㎡  
工事期間 平成26年度～28年度
- 甲西中学校改築(建物のみ)  
事業費 約23億円  
延床面積 6,739㎡  
工事期間 平成28年度～29年度

#### (2) 今後の予定

■ **平成28年4月～平成29年12月**:庁舎整備に係る基本計画策定

- ◇特別委員会(議会による委員会) ・随時開催
- ◇湖南省庁舎建設等委員会(職員による委員会) ・第1回～第5回
- ◇湖南省庁舎整備計画検討委員会(外部有識者による委員会) ・第1回～第4回
- ◇タウンミーティング(4か所)
- ◇パブリックコメント など

■ **平成30年7月～平成31年2月**:基本設計

■ **平成31年3月～平成31年8月**:実施設計

■ **平成31年9月～平成33年3月**:施工(庁舎)

■ **平成33年4月～平成34年9月**:周辺整備工事(解体含む)

(※熊本地震を契機として、防災拠点となる庁舎の耐震化の推進が求められています。このようななか、平成29年度から新たに、庁舎の建替に有利な起債が国から示されました。この起債を活用できる期限が平成33年3月末までとなっているため、この起債を活用できるスケジュールとしています。)

「市民に開かれた安心安全な拠点づくりをめざして」について、ご意見などがございましたら**問**までメールやファックスなどでお寄せ下さい。

今後、庁舎整備に係る基本計画の策定にあたっては、パブリックコメントを実施し、皆様のご意見を募集する予定です。また、基本設計の際にも市民の皆様からのご意見をワークショップなどの形でお伺いし、反映させたいと考えています。

ご意見をお寄せ  
ください!



問 総務課(東庁舎)

☎71 ● 2313    ☎72 ● 3390    ✉soumu@city.shiga-konan.lg.jp